

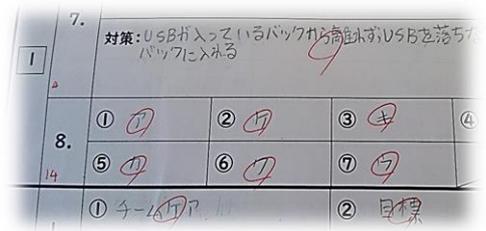
# 夢への架け橋

～僕らの創る福祉の未来～

加世田常潤高校・生活福祉科  
NEWS レター  
第1号(2023.5.26)

## 「大事なテスト / 回目」(文責:大塚)

5月16日～19日まで、2年生で最初の中間考査がありました。私達2年生は今年、介護実習を実施する関係で定期考査が4回しかなく、成績の評価に大きく繋がるので、しっかり勉強をする必要がありました。テストの範囲をしっかりと確認し授業の復習や分からないことを友達や先生方などに聞き勉強しないといけませんでしたが、私は少し復習した程度で復習したところ以外はほとんど分かりませんでした。また、専門教科しか復習していなく普通教科はほとんど手応えがありませんでした。少しずつテストが返却されていますが、もう少し勉強をしていたら正解になる問題も多かったため復習の大切さを改めて感じました。残りの3回のテストでこれまで以上の努力が必要になるので、普段からの授業に積極的に参加して、復習なども大切にすることを心がけていきたいと思いました。



## 「協力と助け合いの二週間」(文責:長野)

5月2日に常潤高校で介護技術コンテストが開催されました。介護技術コンテストは、事例をもとに利用者様のケアの計画を立て、それを実践する取り組みです。

私は、競技者として介護技術コンテストに出場しました。初めて競技者として名前を呼ばれた時は、とても不安になりました。しかし、友人の声掛けや励ましもあり、少しずつ本番に向けて自信が持てるようになりました。毎日放課後に、友人と確認や話し合いを行い、何度も試行錯誤をして練習に取り組みました。当日の会場はとても緊張感がありました。本番では、今までの練習通りに上手いかず自分の満足いく介助ができずとても悔しかったです。しかし他の競技者の発表を見て、先生の講評を聞き、介助方法や声掛けなど自分に足りなかったことを発見することができました。また、出場したことにより、利用者様のケアを一から考えることの難しさなど、今後の課題点を見つけることができ良い経験になりました。

今回の介護技術コンテストを終えて知識や技術だけでなく、物事を成し遂げるために仲間と協力して一致団結することの大切さを学ぶことができました。将来介護職として働く上で協力や連携はとても重要になってくるので仲間との協力を大切にしていきたいと思います。



### 【編集後記】

「介護技術コンテスト」は現在、全国にある多くの福祉系高校が取り組む学習となつていきます。県大会から全国大会への出場の道が開かれています。平成23年より全国で開催されています。高校生の介護の「甲子園」と言えるかもしれませんが、コンテストに向けても、選手として出場した生徒は放課後の時間を活用して、様々な視点から介護方法を考えていました。介護の基本は「個別ケア」です。その人にあつたオンリーワンの介護を、その人の身体状況や生きてきた歴史に合わせ提供します。その方の可能性を信じてサポートできるかが重要です。コンテストへの指導をしながら、「介護」と「教育」の共通点を考えさせられる時間でした。

(学級担任 岩川亮太)